2020年（令和2年）7月1日
くげぬま探求クラブ

会報 くぐひ

第102号(夏号)

◇ くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる ◇

新型コロナがもたらした空白の日々

世話人副代表　池田 修

私たち世話人が「これは何かおかしいぞ」と感じたのは2月末、今年の花見会が大庭城址公園から長久保公園へ変更、3月31日開催に決まった直後でした。場合によっては中止もありか？が頭をよぎる中しばらく静観し、結局中止を決めました。我がクラブの活動拠点、鵠沼公民館の動きも同様でした。2月末に「3月の部屋貸し中止」の通告が出て、世話人会は3月例会の見送りやむなしを決断（例会資料配布）しました。

世話人に執行権はなく、もっぱらクラブ運営の世話役に徹するのが役目です。なのでこうした重要な事（例会中止）を独断で決められるのか、の議論が世話人の間で出ました。しかし①例会の部屋が無い②3密(後に定説化した密閉･密集･密接)さらに③高齢者の集会、となればアウトでしょう。よって「“超規約的”にやるしかない、甘んじて責任はとろう」と世話人会はまとまりました。

アッと云う間に新型コロナにノックアウトされ、クラブの活動は次々に自粛、ホームページの3月の月間予定表はほぼ空白になりました。残るは鵠沼松が岡公園と藤が谷公園（5月は中止）愛護会の活動、それに農園部会だけになってしまいました。

無力感の中､モンモンと過ごす空白の令和2年3月。突然キョウイク＜今日行く＞、キョウヨウ＜今日用＞がなくなり、ヒマして、家に居る、妄想が拡がる、終には鬱になる…。この時、せめて毎朝の髭剃りはキッチリやろう、毎日家にいるのなら髭剃りなんて無用、とセルフネグレクト（高齢者が陥る自分を構わなくなる老化現象）になってはいけない、と私は決めました。

一旦以前に近いカタチになりかけたものの、4日には「4月中の部屋貸し中止」となり例会を連続中止（会報くぐひ春号と例会資料配布）しました。7日の緊急事態宣言の直後10日には「5月も部屋貸し中止」の追い打ちがかかり、モンモンは連続3か月となりました。

定時総会（4月）での旧年度の決算承認、新年度の方針決定などを議題に3月末、オンライン《Web会議、Zoom：それぞれ自宅に居て、PC画面でお互いの顔をみながら会話、資料も確認できるシステム》で世話人会を開きました。IT全般に長けた奥村代表の機転が実を結び、実用的なツールを我らのものにしました。

みたび連続で中止となった5月の例会には、4月の積み残し分と新予算の承認の重要案件がありました。4月中旬に3回、Web会議で臨時世話人会を開催し、「特例としてメールでの総会とし、資料とともに代表から全員へ発信する」ことを確認、質疑には代表と嶋村会計担当世話人とが対応しました。またメール等での代表への委任は43人（会員52名の2/3以上）に達し条件をクリア、諸議案はメールによる総会で承認されました。

5月14日に神奈川県は緊急事態宣言を延長、21日の再延長を受けて藤沢市は22日、公民館の部屋貸し中止を6月14日まで再延長したため、なんと4か月連続の月例会中止となりました。一方、25日になると6月15日以降の部屋貸しは解除となり、延べ106日ぶりに公民館での活動が事前の検温、部屋でもマスク使用、歌唱禁止などの条件付きで再開できることになりました。

朗報は、沈滞・閉塞・虚脱の中に新しいものが誕生したことでしょう。岡林世話人が立ち上げたオンライン酒場「縄のれん」の開店と奥村代表の「LINEくげ探広場」がそれで、活発なやりとりがみんなの情報の枯渇を補い、会報くぐひ編集会議でも活用されました。また、花見会見送りや活動自粛で生まれた原資を活用し、ボランティア活動の外部拠点である鵠生園と藤沢病院へ各々500枚のマスクの寄贈が実現しました。

誰も予想つかなかった今回のコロナ禍のもたらしたものは何か…。クラブが自分にとってどういう存在だったのか、毎月の活動がひとりひとりの日々の生活にしっかりと根を張り、よすがになっていたこと、を知ったことでした。

この稿の発行日の7月1日、新型コロナ禍がどのようになっているか。クラブの活動自粛が本格的に解け、活動中の笑顔のみなさんとの再会を願うばかりです。

親睦研鑽部会紹介
デジタル情報部会

デジタル社会に遅れないように！

小山 和彦

紹介はくぐひ 87 号（2016 年 10 月 秋号）に続き 2 回目となる。前回は発足から当時までの活動を書いたので今回はその後について述べてみたい。その年、会場として使っていたアコレードが閉店となり、市のフリーWiFi が利用できるようになった公民館に場所を移した。アコレードでは WiFi がなく長い LAN ケーブルを 20 本近く、さらにそのためのルータ 3 台を使っての活動であった。今思えば毎回ケーブルをほどいては片付けるのに苦労したことが懐かしい。

テーマは、パソコンに限らずデジタル関連情報なら何でもということでパソコンの操作、Facebook、Line などの SNS から周辺機器、インターネットの仕組みやスマホについても研究している。

メインテーマは部会長小山とパソコン通の奥村の 2 名が主として研究発表を行ない、そのテーマについて議論をする形で開催されている。これまで取り上げたものは、Word や Excel のさらなる活用方法、Windows10 への移行、セキュリティ問題、トレンド機器の紹介、お役立ちサイト、スマホ利用術などパソコンを中心に各種情報を幅広く取り上げている。

参加メンバーはさすが探求クラブ員、探求心を余すところなく発揮して難しいテーマも熱心に付き合って聴いてくれるのでやりがいがある。

毎月のテーマだが、この世界は次から次へと進化していくので追いつくのが大変になってきている。さらにそれを噛み砕いてわかりやすく説明するとなると結構しんどい。一つのネタについて多数の関連サイトを探し、参考にしながら作っていくが途中で理解を超えて進めず、やむなくボツにすることもままある。

とは言え、ボケつつある頭を何とか回転させてデジタルの世界に取り残されないようメンバー全員で知識を共有していきたいと思っている。

おひる探Ｑ会

食事をしながら歓談を楽しむ

鈴木 英紀

おひる探Q会は昨年 12 月にメンバー6 名（うちゲスト 2 名）により、お菓子の会（平成 31 年 3 月解散）を継承する形で発足しました。

軽昼食をつくって、食事をしながら歓談を楽しむのが目的です。献立は主に和風の日常食に季節の副菜、時には和菓子など、食材費はワンコイン程度のやさしい料理を目指します。

ちなみに、今まで 3 回の献立は次のとおり。

うの花炒り・いなりずし・讃岐うどん（1 回目）/七草がゆ、おはぎ（あずき餡・きな粉）（2 回目）/風呂ふき大根・うの花炒り・茶がゆ（3 回目・2 月 6 日）

今回新たに 2 名加わり 8 名になりました。男性 5 名全員が湘南さざえの会の面々で、女性 3 名はもちろん経験豊かな主婦揃いです。

みんなであれこれ試しながら、やがて探Q名物メニューが生まれることでしょう。

活動は毎月第 1 木曜日 9：30～13：00、鵠沼公民館創作実習室にて。

クラブ短信

オンライン編集会議　新型コロナによる自粛要請の影響で公民館における編集会議が開催できなくなった。そこで岡林さんと奥村さんが開設している Zoom を使用した会議室を借用して在宅にて 5 月 13 日と 6 月 10 日に「オンライン編集会議」を開催した。PC 画面上に原稿を表示し推敲する作業は、プロジェクターで大画面に映して行う従来作業にくらべてそん色ない方法であった。

エジプト・ナイル川クルーズ

萩原 興成

新型コロナウイルスの感染者がやや出始めた2020年2月28日からエジプト･ナイル川クルーズ8 日間の旅に参加した。エジプト航空の直行便は14時間程でカイロに着く。カイロ到着後、国内線に乗り換え、成田を出発してから18時間程でようやく最初の目的地ルクソールに到着。

昨年6月にカミさんと2人でナイル川クルーズに参加。見るもの全て教科書や写真でしか見たことがないものが目の前に現れる。3000年から4000年前に建設された遺跡群を目の当たりにして一人で感動していたように感じる。旅の途中から既に1年以内に再度行くことを頭の片隅で考えていたような気がする。帰国後カミさんに話したところ、遺跡や景色は気に入っていたようだが、食事は地元の味付けになじめず､2度は行きたくないといわれた。…ということで今回はおじさん一人旅となった。

ナイル川東岸は日の昇る方向で生者の町と呼ばれ、カルナック神殿、ルクソール神殿など様々な神殿が建設され、又西岸は太陽が沈む方向で死者の町と呼ばれ、ツタンカーメンの王墓などがある王家の谷や、1997年テロによる銃撃を受け日本人を含め60数人が犠牲になったハトシェプスト女王葬祭殿などがある。これらの遺跡をナイル川を南下しながら順番に観光。

クルーズ船がアスワンに到着すると、世界最初の世界遺産であるアブシンベル神殿にバスで向かう。3時間ひたすら砂漠の中を走る、バスには大きな拳銃を持ったツーリストポリスが常に同乗しているが、途中軍事施設があるため駐停車は一切許されない。砂漠の向こうの地平線には蜃気楼も見え、また未発掘の遺跡や朽ち果てた建築物を見るとロマンを感じる。アブシンベル神殿は朝日が当たる時間が一番きれいに見えるようで、朝8時には到着した。帰りは同じ道を3時間バスに揺られ、アスワン近くまで来るとバスは砂漠の道端に停車した、この界隈で一番きれいな砂だそうで、ペットボトルに詰め持ち帰った。

今回はナイル川クルーズ船に4泊、ホテルに1泊の旅で昨年より船が1泊多い日程であり、ほぼ午前中に船を降りて遺跡など観光。午後は船に戻り船内でのんびりくつろぐことができた。私はほぼ毎日船のデッキでプールに入るのはやや寒いものの、海パンをはきナイル川の景色を見ながらワイン片手にビーチベッドでプチ贅沢な…お一人様…時間を過ごし、アガサ･クリスティの世界を垣間見た気になった。

船内のイベントとしては､3時ごろデッキでアフタヌーンティーが飲め、夜はベリーダンスショー、ガラベイヤパーティー（各自民族衣装を着て参加する)、カクテルパーティーなど毎日催しが企画されていた。アスワンから飛行機でカイロに戻り、クフ王のピラミッドに向かう。中に入ると通路は狭いので、腰を低くして昇っていく。ほぼ中央に玄室がありそこは天井も高く比較的広いスペースで奥に石棺がポツンと置かれていた。その後エジプト考古学博物館ではメインともいえるツタンカーメンの黄金のマスクなど見ることができた。旅行は終盤になりアレキサンドリアに宿泊し、ポンペイの柱など足早に回った。

我々のツアーはご夫婦（年配）の参加は多いものの、お一人様は自分を含め男性2名女性は6名そのうち最年少で大学4年の女子大生が1名卒業旅行で参加、など総勢20名でバス移動する場合もゆったり座れた。雲ひとつない晴天に恵まれ且つ気温も3月上旬は日中25℃～28℃ぐらいで、昨年6月の気温 40℃～45℃と比べ、とても過ごしやすい季節だったような気がする。しかし、6月の気候は確かに暑いものの花も多く咲き、町には夜中も人があふれエジプトらしさを感じた。また行こうかな…

ピラミッドとスフィンクス

ナイル川・クルーズ船

ビフォア・アフター

大きな区切り・小さな区切り

甘利 紘

人生の区切りごとにビフォア・アフターの経験は何回もありましたが、どれも予想の範囲で、80年間で最大の変化は60才の定年退職、再就職でした。35年近く務めた写真フイルム会社で、液晶パネルやイメージセンサーの白黒画面をカラー化する為の材料の開発販売、内外のユーザーに材料の使い方の技術指導をしており、そのお客の韓国サムソンの液晶部門から引続き指導をして欲しいとの提案がありました。初めての海外勤務、しかも外国の会社で若干腰が引けましたが、当時サムソンの液晶はベストテンにも入れない位置で応援の価値があり、月20日間の韓国勤務を決心。一緒に仕事する息子達と同年代の技術者と言葉の不足は絵に描いて教え、ボスは私より年下で日本語が達者。私生活は一回り年上の日本語堪能な家政婦が面倒みてくれて、食事も美味しく快適な12年間でした。発展中の液晶事業は、4年毎に5~6倍能力の新工場を作り、一つの生産ラインで52インチのTVを年800万台作れます。新工場の稼働は未知の故障が続発で存分に楽しみました。サムソン退社時には、液晶生産はシャープを抜いて世界一になり、参加した充実感を味わいました。勤務日は段々と減らし、退社時は月10日になっており、毎日が日曜日にはスムーズなソフトランディングでした。その後くげぬま探求クラブへ入り、おもちゃの病院と松が岡公園の活動を楽しんでいましたが、世話人指名は予想外でした。宴会担当ではスーパーの折り詰めの美味しいメニューと値段の関係を理解、会計担当では初体験の帳簿に苦戦、世話人会では夫々の意見調整も学びました。

今はコロナ禍の最中ですが、これが収まった後は世界中でビフォア・アフターの大変化が体験できそうです。

未知との遭遇ですね！

入会していなかったら

柳田 敏雄

5年半前になるが70歳で入会した時の在籍番号が53番だった。今は34番と出世（？）したものだ。入会前、いくつかの会社でサラリーマン生活を続け、土日に英気を養い月曜から仕事の日々だったが、こんな毎日が明日からなくなるという数か月前に公民館ホールで開催された探求クラブ主催の催事に参加した。ここでこのクラブは一つのサークルなのに沢山の部会があり、教養（今日、用がある）と教育（今日、行くところがある）の言葉を教わり、面白そうなので以前からお誘いを受けていた河村さん経由で入れて頂いた。

入会後の印象は、とてもよくできた仕組みのサークルで、沢山ある部会も気が合ったものに出ればよいと教わった。現在、毎月出ている部会は、3.11東日本大震災の恐ろしさの記憶から発起人とともに立ち上げた災害研究部会、好きな野菜作りができる農園部会、松が岡公園愛護会では清掃作業にいそしみ、人数は少ないが写生好きのスケッチ部会、更に新しい技術を学ぶデジタル情報部会と結構毎月のスケジュール表が埋まっている。

では、入会していなかったらどうなっていたのだろう。

新型コロナウイルス禍で外出自粛を行っている現在の状況は、まさに入会しなかった日々に相当するのではないだろうか。

外出自粛とは言え、朝から晩まで自宅で時間を潰すのはいい加減に勘弁願いたいというのが実感だ。

こんな外出自粛の時でさえ、時流に遅れずWeb会議の「縄のれん」で皆さんとお会いして一杯飲み、3密ではない農園部会で種まきから収穫まで部会の皆さんと野菜を育てる楽しみを味わえるのは、まさに入会していたからだとつくづく思う。VIVA探求クラブ！

不織布マスクをヤングハーツ訪問先2施設に寄贈

小山和彦

5月29日、鵠生園、清心会藤沢病院に不織布マスクを500枚ずつ寄贈しました。

新型コロナウイルス対応でステイホームが続く4月下旬、長谷川さんから自治会関連で不織布マスクが手配できるのでクラブ員で購入希望者を募るメールが配信されました。これを受けて会計担当世話人の嶋村さんが、多くの施設でマスクの不足がニュースとなっていることから、クラブとして付き合いのある団体にこのマスクを寄贈することにしてはどうかとの提案がなされました。

新型コロナウイルスの影響で今年のお花見会がキャンセルになっていることから、それを活用することができそうだとのことで、世話人からみなさんに寄贈先をヤングハーツが定期的に訪問している2施設にすることが提案され、了承されて実現に至りました。

（7ページ下に続く）

シリーズ

我が家の災害対応作戦（その 4）

玉田 英二

我が家の災害対応作戦について何か書かなくてはならないのだが、災害そのものの定義をよく理解できていないことに気が付いた。そこで災害とはどの様なことを言うのかについて調べることとした。

災害の定義は、自然的・人為的な力によって大規模な人的・物的被害が生ずる事態を指す。さらには、災害によって人間に影響を及ぼすことに限られ、人間の生活が破壊されて何らかの援助を必要とする規模のものを指し、それに満たない規模の人災は除かれる。

≪自然的な災害≫とは、危機的な自然現象により人命や人間の社会的活動に被害が生じる現象をいう。暴風・暴雨（台風等）、洪水、高潮、地震、津波、噴火、その他の異常な自然現象により生ずる被害と定義されている。

≪人為的な災害≫とは、人的な社会活動により人命や病気の原因または事故等により、人的被害をもたらす事態を災害という。列車事故、航空事故、海難事故、爆発事故、炭鉱事故、原子力事故、交通事故、公害病、戦争、テロ、等があげられる。

今、世界中を恐怖に陥れている新型コロナウイルス感染についても、人類に対する災害と考えられる。初めは中国の武漢市においてコウモリから人への感染が始まったと報告されたが、その爆発的な感染拡大により多くの感染者と死亡者が報告された。当初の経過から見れば自然災害と思われるが、武漢市や中国当局における情報の隠蔽や対応の遅延があったとも言われている。もしそうであれば感染拡大は人的な災害であると言わざるを得ない。何方にしても人命や社会活動に大きな被害を出しておりまさに大災害と言える。

さて、本題である「我が家の災害対応作戦」についてであるが、常日頃より災害については関心を抱いていることから、いろいろな情報については収集をしている。しかしながら、我が家の災害対応作戦となると自慢できるよう状況ではなく、計画的に準備がなされているとは言いがたく、衝動的に買い揃えているものが多く、計画的なリスト作成により備蓄を実行しているとは言えない。

今回は「くぐひ」制作部からの依頼によりこのテーマにて原稿を書くことになったので、改めて我が家の災害対応計画を考え、以下のような“計画目標リスト”を策定してみた。

1. 我が家の置かれた環境条件

所在地：鵠沼海岸１丁目、鵠沼海岸線より 300 m、地盤標高 約 5m、築 10 年木造 2 階建住宅

㋐ 自然災害に対して考慮すべきこと

・暴風（台風）による影響：強風による住宅への影響（屋根やサッシ類）が懸念される

・地震による影響：建物本体の影響は少ないが、砂地盤であるため液状化現象により基礎地盤の不当沈下が懸念される。ライフライン(水道、下水道、電気)が停止される可能性が大きい

・津波による影響：津波ハザードマップによると浸水深 0.5～0.8m、床上浸水を想定される

・富士山噴火：1707 年の宝永噴火により江戸に火山灰が降った。富士山の東側はその確率が高い

㋑ 人的災害に対して：現在の生活状況では、考慮すべき点は少ないと考える

2. 我が家の災害対応計画の目標値

高齢者 2 人住い、ライフラインが停止した場合における在宅避難（在宅被災者届提出）を想定する

㋐ 物品の備蓄（在宅避難は 7 日間を想定して蓄える）

・食料品（3 食/日×7 日×2 人＝42 食）米：14 合(2.1 kg)、缶詰：21 個、冷凍食品：14 個、レトルト食品：10 個、インスタント食品：10 個、その他 乾麺･パスタ類、カセットコンロ 2 台：ボンベ 7 本

・飲料水（3ℓ×7 日×2 人＝42ℓ）：500 cc×14 本、ポリタンク 35ℓ、ペットボトルお茶 2ℓ×5 本

・携帯トイレ（5 回/日×7 日×2 人＝70 個）：消毒用ティッシュ 7 個、トイレットペーパー4 個、ポリ袋 14 個

・その他：緊急時持ち出し用リュックの準備（懐中電灯、スマホと充電器、常備薬、寝袋、etc）

㋑ 建物の対応：暴風対策(仮設は合板補強)を行う。津波による浸水対策を考慮する。
建屋内部は、転倒家具の固定化、常時風呂湯の確保、消火器設置、ブレーカーの遮断器。

㋒ 避難先情報：･水害避難時=JFE 江の島苑友荘、･避難施設=湘南学園 or 鵠南小学校　徒歩 15 分

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の奥村」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください

私の趣味

「喪失と孤独～右往左往の日々～逃避行のマレーシア stay」

佐々木 裕一

私が60歳定年を迎えた頃は、景気の低迷が続き、年金受給まで食いつなげば、なんとか生活は出来ると考えて、思い切って60歳で会社人間を辞めることとした。

「定年と共に、会社人間を辞める」ということは、ひと口では簡単だが、とんでもなく辛いことで、交流が同僚や仕事関係でのお付き合いがほとんどで、その交流関係を、基本的には断ち切るのだから、精神的動揺は相当なものであった。

それから約5年後に、病気療養中に妻が亡くなり、人生の相棒もいなくなり、時間ばかりが残ってしまった。

幸い以前住んでいた近所の人からは、「マメ男」と、陰口を囁かれていたぐらい「みっともないほどのマメ」であったので、「ぬれ落ち葉」にはならなかったし、普段の生活は何とかなったが、喪失感と孤独感は、もう二度と味わいたくないと思うほど強烈なものであった。

二人の娘たちは、それぞれ伴侶を見つけて家を出て行っていたので、当時住んでいた戸建て住まいを売り払い、駅が近くて「食べモノ」が多く「生活必需品」が手に入れやすい場所に移り住んだ。

そのような人生環境であったので、何をやっても、手につかず長続きはしない日々を過ごしていた。いわゆる「右往左往の毎日」であった。そこで始まったのが、「逃避行」と「放浪の旅」である。

マレーシアは、ご存知の通りマハティール（現在94才）の「Look East 政策」が掲げられて、日本人には好意的であった。6ヶ月観光ビザで滞在が許されていて、6ヶ月寸前にシンガポールに出て、再入国が可能であったから、わざわざ永住ビザを取らなくても、自由に滞在できた。最初は、一人参加ツアーに申し込み、ボルネオのサバ州の州都のコタキナバルとその周辺に行ってみた。

その後、同じ境遇で知り合った友人(6年前に没)に誘われ、マレー半島側のキャメロン・ハイランドへゴルフを兼ねたstayに出掛けた。（2009年2月、9日間、Heritage Hotelに滞在。）、キャメロンハイランドは、マレーシアが英国の植民地時代に、英国人が避暑地と紅茶の栽培を目途として開発した高原の土地であり、気温も25度前後の涼しい高地でゴルフコースもあり、日本人の永住者も多い。当時は夫婦2人で15万円もあれば、優雅に暮らせる環境ではあったが、日本人の「キャメロン会」のようなものがあり、そこでの組織の弊害が出ているような感じもした。

その年の8月（2009年8月）、前述のボルネオ滞在に一人で挑戦した。

そこには、「キナバルハイランドクラブ」というロングステイとゴルフを楽しむ会というのがあり、ホームページなどで、情報を公開していたので、それを頼りに行ってみた。

成田からコタキナバルまでは、マレーシア航空の直行便が当時週3便ぐらい飛んでいて、6時間弱で着いた。ロングステイ場所は、コタキナバルからバスか乗り合いタクシーで、108ｋｍの「ラナウ」と131kmの「ケニンガウ」である。

そのほかの場所にも滞在している人もいたが、それはベテランの人たちである。

ラナウには9ホールのゴルフコースがあるが、牧草地に毛が生えたような、コースで、当時は日本円に換算して1000円ぐらいでプレーができた。ステイ場所は「スラゴンホームステイ」という民宿で、二食付きで当時一泊2000円程度と記憶している。食事はマレーシア料理で、ご想像に任せるが、街へ出た時に、パンなどを買い込んでおかないと生活ができない。

そこには北海道から避寒を目的とした夫婦が何組かいて2～3ヶ月滞在していた。夜はおしゃべりや、ギターとハーモニカ、ウクレレなどで、音楽を楽しんだり、ミニバスで街へ出て、中華屋で食事を楽しんでいた。しかしながら、強盗、置き引き、かっぱらいが多発していたので、夜の外出はしないように、「スラゴンホームステイ」のおかみさんからは、うるさく言われていた。

次の滞在地ケニンガウは、華僑社会の色濃い街で、街の中はマレー系住民と華僑が、表面的には共存しているが、経済の実態は華僑が握っている街で、ゴルフコースも比較的整備されたコースがあった。宿泊は「Juta Hotel」か「Perkasa Hotel」が一般的で、街の中にあるので食事には便利であった。

以上のような「逃避行」のマレーシア stay を、3回ほど続けたが、根っからの「放浪癖」は、灼熱の太陽の下でのゴルフプレーはもう嫌になり、その後は、転々とその日暮らしが続いている。

～例会・各部会活動報告～

３月　March

◇例会 感染防止のため休会、例会資料は配付
◇行事 ①15 日開催予定の鵠っ子囲碁･将棋ルーム「春のトーナメント大会」も感染防止のため中止。②31 日開催予定の「お花見」も同上の理由で中止
◇世話人会・委員会 ①世話人会 4 日 臨時 22 日(高松) ②メディア委員会 休会 ③くぐひ制作部 休会 101 号検討はメールで対応 ④ＨＰ制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 15 日 6 名 清掃
○藤が谷公園愛護会 15 日 8 名 清掃
○農園部会 ＊9 日 7 名＊17 日 8 名

以下の部会は感染防止のため休会
○ヤングハーツ　○おもちゃの病院
○子どもと遊ぶ会　○鵠っ子囲碁・将棋ルーム
○災害研究部会　○極楽部会　○サロン会
○健康部会　○探訪部会　○カラオケ部会
○談話室　○スケッチ部会　○デジタル情報部
○ヤングブラザーズ　○近代史を語る会
○企業研究部会　○なつかしの名盤愛好会
○俳句の部会「似歌会」　○おひる探Ｑ会

４月　April

◇定時総会 招集不能によりｅメールで定時総会資料を事前に添付配布し実施、委任状を含む出席者 44 名(34 名以上で総会成立)。H31 年度活動報告･会計報告､R２年度予算･運営方針､監査人岸再任 承認
◇例会 感染防止のため休会、例会資料、くぐひ春号配付
◇行事 なし
◇世話人会・委員会 ①世話人会 定例 1 日､臨時 15 日･22 日､定例 29 日 以上 Zoom で実施 ②メディア委員会 休会 ③くぐひ制作部 102 号編集会議はメールで実施 ④HP 制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 5 日 16 名 清掃、盛会
○藤が谷公園愛護会 12 日 13 名 清掃
○農園部会 ＊5 日 5 名 ＊8 日 6 名＊14 日 4 名

以下の部会は感染防止のため休会
○ヤングハーツ　○おもちゃの病院
○子どもと遊ぶ会　○鵠っ子囲碁・将棋ルーム
○災害研究部会　○極楽部会　○サロン会
○健康部会　○探訪部会　○カラオケ部会
○談話室　○スケッチ部会　○デジタル情報部会
○ヤングブラザーズ　○近代史を語る会
○企業研究部会　○懐かしの名盤愛好会
○俳句の部会「似歌会」　○おひる探Ｑ会

５月　May

◇例会 感染防止のため休会、例会資料は 6 月例会で配布予定
◇行事 ①「輪ゴム鉄砲での遊びサポート」ひょっこり鵠南島 ②「ゴルフコンペ」 以上は感染防止のため中止
◇世話人会・委員会 ①世話人会 臨時 1 日･28 日 Zoom で実施 ②メディア委員会 休会 ③くぐひ制作部 13 日 11 名 102 号第 2 回編集会議 Zoom で実施 ④HP 制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護 3 日 15 名 散開して清掃
○農園部会 ＊3 日 7 名＊13 日 7 名

以下の部会は感染防止のため休会
○藤が谷公園愛護会　○ヤングハーツ
○おもちゃの病院　○子どもと遊ぶ会
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム　○災害研究部会
○極楽部会　○サロン会　○健康部会
○探訪部会　○カラオケ部会　○談話室
○スケッチ部会　○デジタル情報部会
○ヤングブラザーズ　○近代史を語る会
○企業研究部会　○なつかしの名盤愛好会
○俳句の部会「似歌会」　○おひる探Ｑ会

(4 ページからの続き)

29 日午前、前日長谷川さんから受け取ったマスクを小山車に積み、奥村代表と野村部会長を拾ってスタート。まずは鵠生園を訪問、入り口近くのスペースで理事長、施設長にマスクを贈呈。施設長からは、入所の皆さんがヤングハーツの一日も早い訪問を心待ちにしていますとの言葉を頂きました。

続いては藤沢病院を訪問。少し早めに着いたので連絡をしたら、少し待ってほしいとのことで待機。約束の時間に玄関まで伺ったら、なんと院長ほか担当部署の方たち 10 人も出ていただいて受け取っていただきました。院長からは活動への感謝状が奥村代表に手渡されました。定期活動ではいつも認知症の病棟を訪問しますがみなさん大変寂しがっているとのことで、あらためて私たちの活動が必要とされているのだと感じさせられました。

探求クラブは2011年の東日本大震災の時にも義援金拠出と救援物資受付･整理を行った記録がありますが、今回はそれに続くものとなりました。

鵠生園で

藤沢病院で

自 由 席

オンライン飲み会「縄のれん繁盛記」

岡林 哲夫

新型コロナウイルス感染防止のため、奥村代表から世話人会を Zoom というオンライン会議システムを使って開催しようと提案があり、4 月から世話人会は Zoom で開催していました。Zoom の使用法を予習するうちに、これは飲み会に使えるのではないかと感じました。お花見や室内での部会活動の中止により、反省会という飲み会がなくなりストレスを感じている会員も多いと思い、このような状況でこそオンライン飲み会の場を提供すべきだろうと思い立ちました。

＜オンライン飲み会＞という言葉を初めて聞く方も多いと思いますが、5 月 15 日付け日本経済新聞朝刊企業面でも『「オンライン飲み会」定着』という記事が掲載されるほど市民権を持ちつつある用語です。パソコンやスマホのオンライン会議システムやアプリを使って友人達と画面を通して交流しながら、主に自宅で好きな酒・非アルコール飲料を飲むことを指しています。上記記事では『自宅居酒屋は「安･健･多」』とも書いています。

3 月末からくげぬま探求クラブ会員限定のオンライン飲み会を「縄のれん」という名で開設・試行し、4 月末には会員の皆さんにご案内しました。お店というコンセプトで開設したので、『開店時間は原則 月～土の 17 時頃～22 時で、皆さんの生活時間に合わせて「のれん」をくぐり、誰かいれば一緒に飲む、いなければ TV や本を見ながら誰かが入店するまで過ごすというスタイルで使って下さい。飲み物（アルコール or ノンアルコール飲料）とおつまみは各自で用意して下さい。19:30 頃から 21 時頃が多くの方とお会いできます。テストご希望の方は 17 時から 19 時が空いています。私は開店してから閉店まで店に常駐するわけではありませんが、店番として店の様子は見ています。』とメールしました。

4 月には一日平均約 6 名だった来店者数はメールを出した連休以降に約 8 名強となり、会員の「縄のれん」入店経験者は 21 名になっています。外に出なければ他人と話をする機会が無い＜やもを＞の方にも大いに利用していただきました。これには奥村代表が操作に不慣れな方に利用法を懇切に指導されたことが寄与しました。

「縄のれん」での話題は、鵠沼海岸商店街や公民館の状況、Zoom 画面に映る各人の背景の設定法や思い出話、健康の情報など取り留めのない内容が多く、居酒屋での反省会の雰囲気でした。その中でマスクの話題になったときにはクラブで購入し日頃お世話になっている施設に寄贈したらという話が出て、嶋村さんが意見を取りまとめ世話人会に繋ぎ会員の審議を経て寄贈が行われました。会報くぐひ制作部も Zoom の画面共有機能や会議室分割機能を活用し「縄のれん」で開催されました。

公民館が再開し「縄のれん」は 6 月 15 日をもって休業としましたが、散発的な飲み会や打合せ・報告会には開店しようと思っていますので、皆さんもお気軽にお越し下さい。

編集後記　本号の編集会議は一度も公民館では開催できなかった。印刷作業にもいろいろ支障がでたりして、新型コロナは手ごわい相手である。巻頭には池田修さんの「新型コロナがもたらした空白の日々」を掲載。関連記事として自由席に岡林さんがオンライン居酒屋「縄のれん」を紹介。クラブ入会ビフォア・アフターには甘利さんと柳田さんが登場。今回の旅紀行は萩原さんの「2 度にわたるエジプトツアー」を掲載。部会紹介ではデジタル情報部会を小山さんが、新発足のおひる探Q会を鈴木英紀さんが投稿。シリーズ 我が家の災害対応作戦（その 4）は玉田さんが執筆。佐々木裕一さんが「私の趣味」でリタイア後の様子などをご披露した。トピックス記事として小山さんが不織布マスクをヤングハーツ訪問先 2 施設に寄贈した記事を投稿。（塩爺）

会報　くぐひ　第 102 号
2020 年 7 月 1 日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 奥村 誠
編集長 塩川 昌男